

〔6番 上ヶ吹豊孝 登壇〕

○6番（上ヶ吹豊孝）

それでは、議長のお許しを得ましたので、一般質問をいたします。

1つ目、山田湖の治水と下流域の安全は。飛騨市でも過去にゲリラ豪雨や線状降水帯による短時間の激しい雨により、河川の氾濫、国道、県道やJR線への大規模な土砂災害が発生しています。平成11年9月14日、台風16号や、平成16年10月13日の台風23号、平成30年7月5日から8日にかけて大雨となり、神岡町では72時間雨量が380ミリの観測史上1位となる雨量を記録して、数年に一度記録的な雨が降っています。

そこで、豪雨対策として、東神岡町の山田防災ダムが昭和63年に完成しておりますが、過去の豪雨では、平成11年9月の台風16号では、下流の山田川が氾濫して、上山田地区では県道や水田に越流する被害があり、その後、上山田地区の山田川は川底を1メートルほど掘り下げる工事が行われたと聞いています。

近年では飛騨地域でも線状降水帯が発生しています。幸いにも、飛騨市では平成30年以降では豪雨はないようですが、いつ線状降水帯が発生して大きな災害が起こるかもしれないと心配しております。

そんな中、今回、神岡町山田防災ダムについて質問したいと思います。山田防災ダムに流入している河川は大笠川、小谷川洞、巢山川、山田川の4河川です。特に小谷川洞と巢山川は雨が降ると土砂の流出が多いと聞いております。

地域住民から、山田湖の貯水は大丈夫か、下流の山田川沿いの神岡町内地域に被害が出ないのか心配であると声を聞きました。今回、再度山田防災ダムの貯水能力や下流地域の神岡町内の問題などについて質問をいたします。

1つ目、ダム湖内の堆砂除去は。堆砂は河川の上流から流入してダム貯水池の湖底に堆積する土砂のことで、山田防災ダムには、大笠川、巢山川、小谷川洞、山田川の4河川が流入しており、特に小谷川洞と巢山川は大雨が降ると川は荒れ、土砂の量が多いと地元の方が伺いました。私は議員1年目の6年前に山田防災ダムとしての役割を果たしているのか伺いました。当時の部長答弁では、平成30年に実施した調査では、計画堆積量15万立米に対し、当時の堆積量は7万立米と推定され、約53%の余裕があり、有効貯水量も計画堆砂量に余裕があることから問題ないとの回答でした。しかし、6年前と比べると明らかに堆砂量が多くなって、雑木や雑草が生い茂っています。本当に貯水能力に問題ないのか、調べますと、ダム建設計画段階でダム堆砂シミュレーションが実施され、堆砂が進行することを見越した上で100年間の使用に耐える容量を備えたダム建設がされているそうです。しかし、近年は想定外の豪雨、線状降水帯が発生し、土砂崩れなどによってダムに大量の土砂が流入し、予測を超えて堆砂が進行するダムもあるそうです。現在の山田川ダムですが、堰堤から約70メートルから80メートルの堆砂がない状況で、あと数年もすれば全て堆砂で埋まるのではないかと心配しております。

そこで、平成30年に実施された堆砂量調査から現在の山田防災ダムの堆砂量は把握されているのか。また、今後、堆砂除去計画はあるのかも伺います。

2つ目、ダム湖内の雑木除去を。堆砂問題と同時に気になるのが、雑木や雑草が生い茂り、落

ち葉はスクリーンに詰まり、水の放出の妨げになり、倒木は木々の間に横たわり、洪水時に流水をせき止める危険があります。また、雑木の根が堆砂を固定し、土砂がさらに堆積しやすくなるといった悪循環につながると推測します。

令和2年に一般質問した翌年に、堰堤近くの一部で雑木の伐採が行われましたが、6年も経過すると伐採前のようになっております。今後、市としてダム湖内の雑木や雑草の除去計画は検討されているのか伺います。

3つ目、山田湖下流域の安全確保は。全国各地で線状降水帯による大規模な豪雨被害が発生しています。山田防災ダム下流域の山田地区は、平成11年9月の台風16号で河川が氾濫して、県道や水田に被害が出たため、川底を1メートル下げたおかげでその後の越水はないようです。しかし、神岡町上今町、幸土町などについては川底も浅く、川幅も狭い箇所が多くあり、豪雨時に氾濫するリスクも高まるのではないかと心配しているところです。山田防災ダムの堆砂や雑木処理も併せ、県土木事務所とは山田川の水位上昇リスクに対して下流域の安全性対応については調査や検討はされているのか伺います。

そこで、資料を添付しておりますので見ていただきたいと思います。

これは、①というのは建設当時の山田防災ダムを下流から写した写真です。それで、2番目の写真が先日撮ってきた写真なんですが、ちょっといまいちカメラワークが悪くて、木が生い茂っているところが見えないんですが、実は現地へ行くと相当の雑木が生い茂って、堆砂も多くあるという写真です。それで、3番目と4番目が上今町4地区のここも川幅が狭く、両岸の高低差もないというところと、4番目も幸土町の船津駅の下から撮った写真です。

そういったことで以上の質問を終わります。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔基盤整備部長 横山裕和 登壇〕

□基盤整備部長（横山裕和）

それでは、山田湖の治水と下流域の安全について質問いただきましたので、1点目のダム湖内の堆砂状況についてお答えいたします。山田防災ダムについては、飛騨市山田防災ダム管理条例及び管理規則に基づき、竣工時より毎年1回の点検を実施しているところです。

堆砂状況の調査は、貯水池の堆砂高をダム水面からの水深計測により確認し、流入した堆砂量の状況把握を実施しております。昨年度の調査結果では、計画堆砂面717.5メートルに対して現況の堆砂面は714.46メートルとなっており、約3メートルの余裕高があることを確認しており、6年前とほぼ同様の数値であり、大きな変動がないため、現在のところ喫緊な対応が必要な状況ではないと考えております。今後も引き続き毎年の計測を行い、適切に管理してまいります。

続いて、2点目のダム湖内の雑木除去についてお答えいたします。ダム湖内の中州の雑木については、令和3年度に伐採を行いました。現在のところ伐採前の状況にまでは成長しておらず、ダムの機能を阻害するような状況ではないと判断しております。

しかし、雑木は年々大きくなってまいりますので、日常の巡視を基に必要に応じて伐採を行うなど、適正な維持管理に努めてまいります。

また、スクリーンに堆積した流木や雑草などは毎年定期的に除去しておりますが、異常に堆積

した場合などは状況に応じて除去するなど、適正な維持管理に努めてまいります。

続いて、3点目の山田湖下流域の安全確保についてお答えいたします。一級河川山田川の管理者である岐阜県古川土木事務所では、堆積土砂や雑木処理について定期的な河川パトロールを実施するとともに、地元からの要望などから現地確認を行っており、河川断面を阻害している箇所についてはしゅんせつを行うなど、維持管理を実施されております。近年では令和5年度に下山田地区で堆積土砂のしゅんせつを行っていただきました。

また、安全性に関する調査や検討については、山田川は既に一定の整備がなされており、直ちに整備が必要な河川ではないとの見解から、新たな調査や検討は実施されていないと伺っております。

なお、山田川は岐阜県新五流域総合治水対策プランにおける河川堤防緊急点検の結果に基づく対象河川に位置づけられていることから、毎年河川堤防の点検を実施されており、異常が確認された場合には補修等の検討を行うとのことです。

今後も引き続き古川土木事務所と連携を図りながら、市としましても県に対し必要に応じて対応を要望してまいります。

〔基盤整備部長 横山裕和 着席〕

○6番（上ヶ吹豊孝）

ありがとうございます。それで、今の答弁で、6年前と堆砂量があまり変わらないということだったんですが、私も前回の写真と比べると、ちょうど流入口から川が入ってきて、両側なんですけど、前回よりもかなり盛り上がってるような気がして、恐らく堰堤近くはいいんですけども、やはり上流のほうへ行くとかなり堆砂量が多いような気がするんです。それで、結局毎年雨が降ると河川整備がされておらんので、当然土砂が入ってきて、今言われた3メートルというのは堰堤近くのことだと思うんですが、実は前回聞いた堆砂量が7万立米というふうに回答がありました。簡単に言いますと、1台当たり10トンダンプにすれば7,000台分なんですよね。そうすると、このままずっとほかっとしたらだんだん増えて、予算的に多分大変なことになるんで、定期的に入った分ぐらいは除去しないと後々大変だと思うんですが、その辺の堆砂除去の計画というのはされていないのでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（横山裕和）

6年前の答弁と重複するところがあると思いますが、ダム建設時から計画堆砂量ということで15万立米程度は堆積することを見越した上での建設がされております。先ほど申しました結果からも、現在も6年前とダム湖全体の堆砂量としましては大きく増えておらないというような状況でございますので、今のところいつしゅんせつをするかというような計画は持っておりませんが、毎年の結果を常に注視しながら、耐用年数であります80年とか、そういう先を見越して必要となる時期が来ればまた検討いたしますけども、今のところいつしゅんせつが必要であるというようなことを検討する状況にはないと考えております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

前回15万立米がキャパで半分の7万立米ということで、6年たってあまり変わらないというこ

となんで、私も実測なんていうのはできないんで、そういった答弁だというふうに思います。

それで、一つ気になるのが、毎年豪雨とは言いませんけど、かなりの雨量がありますよね。そのとき山田川を通るとかなり川が氾濫しているんですけども、山田湖の放流の管理はどこでやられているのかお聞かせください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（横山裕和）

山田湖の管理者は飛騨市でございまして、ダムゲートの管理は飛騨市の神岡振興事務所のほうで行っております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

分かりました。結局、私が心配するのは、かなり山田川が氾濫しても、止水、要はゲートを閉めていなくてそのまま垂れ流しのような気がするんですね。というのは、貯水すると、中にある落ち葉とか雑木が流れて、逆に言うと、スクリーンをせき止めてしまうんで、できないんじゃないかというふうに思っているんですが、その辺、今管理者は振興事務所ということだったんですが、もしそういったことじゃなくて本当にあれだけの水が流れても流量調整しないというのは、あれで間違いないという理解でよろしいでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（横山裕和）

ダム管理規定に基づきまして、ダムの水位の上昇を見ながら一定の水位になりましたらダムのゲートを閉めるとか、段階的にゲート操作の規定を定めておりますので、それに基づいて操作を行ってまいりますので、現在、問題なく操作しておると考えております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

当然市では今、市が管理ということで流入量だとか、水位だとか、降雨量だとか、そういった状況を判断されて下流に流していると思いますけども、線状降水帯というのはいつ襲ってくるかわからないので、今後も十分監視いただいて、とにかく先ほどの神岡町内のほうは護岸工事もされておられませんし、かなり低いところもありますので、住民の方は心配されておりますので、その辺の管理をお願いしたいというふうに思っております。

私も6年前に一般質問を初めてさせていただいて、答弁としては問題ないということだったんですが、翌年、道を造って、伐採して、1年後にやったんやなというふうに思ったものですから、恐らく今の話を聞くと、来年度の予算には入っていないと思いますけども、6月の補正に山田湖の伐採、堆砂なんていうのを期待しながら質問を終わりたいというふうに思います。

それでは、2番目の質問に移ります。

神岡町のショートステイ休止について。先日、飛騨市神岡町社会福祉法人神東会、たんぼぼ苑の旭ヶ丘ショートステイが来年3月末で休止すると報道され、施設を利用されている複数の知人から何とかならないのかと問合せがありました。

社会福祉法人であるため、直接行政が関わることはできないことも理解していますが、地域の介護を支えてきた重要なサービスであり、利用者や家族に大きな不安を与えています。

また、団塊の世代全てが今年で75歳以上となり、2040年前後には要介護人口のピークと言われています。高齢者を抱えている家族でも将来的にどうなるのか心配されていますので、市の対応について質問いたします。

1つ目、空床型サービス移行の問題は。来年度より神東会の別施設である特別養護老人ホームたんぼぼ苑で空床を使ったショートステイとして機能する施設とありますので、制度上は問題ないということです。

空床型サービスは、本来の入所者が一時帰宅や入院などでベッドが空いたときのみに使われることが多いと言われております。ベッドが埋まっていると利用できなくなるのではないかと心配していますが、そうした場合どのような対応になるのか伺います。

また、通常、ショートステイ利用は予約制で利用されていると思いますが、家族の急な用事などでショートステイを利用したい場合、ベッド数も少ないようなのでどのような対応になるのか伺います。

2つ目、ショートステイの移行計画は。既存のショートステイは30床あり、そのうち約20床程度が利用しているとあります。特養たんぼぼ苑でショートステイの利用を段階的に受け入れし、利用枠は10人前後を予定しているようですが、段階的とは具体的にどのような計画なのか伺います。

また、10床前後を準備する間の対応も併せて伺います。

3つ目、団塊の世代対応は。2040年前後が要介護人口のピークと言われています。15年後のショートステイの利用者も増えてくると考えられます。地域包括ケアの観点から、市としての長期的ビジョンを伺います。

また、今回の休止要因は夜勤職員の欠員補充が困難であることが挙げられていますが、介護職員確保は以前より言われています。2040年問題に向けての職員確保について伺います。

4つ目、説明会での意見は。今回、2回利用者及びその家族に向けての説明会と施設見学があったようですが、参加された皆さんの不安解消となったのか、また、どのような意見があったのか、分かればお聞かせください。

以上です。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔市民福祉部長 野村賢一 登壇〕

□市民福祉部長（野村賢一）

神岡町のショートステイ休止に関する御質問ですが、市の立場と私どもが把握しております情報の範囲でお答えをいたします。

また、1点目の空床型サービス移行の問題、2点目のショートステイの移行計画については関連がございますのでまとめてお答えいたします。

神岡地区での新たなショートステイ事業の確保は、人材確保の面から難しい状況です。そこで、特別養護老人ホームたんぼぼ苑で、空床を利用する形を取ることとなりました。

神東会からは、1月に4床、2月に6床と段階的にショートステイ用のベッドを確保し、受入れを始めると聞いています。

ただ、これにより一時的に神岡町内の特養への入所が難しくなる可能性があります。このため現在、当該法人の特養に申し込んでいる55人の待機者の方々には、他の市内特養へも同時に申し込むなどの対応が必要になる場合があります。

緊急でショートステイを利用したい場合は、定期利用者との調整が必要になりますが、高山市や古川町、大沢野町の施設と既に契約を交わした方もいらっしゃるようです。市としては、こうしたケースの緊急支援として、古川や富山方面へ移送に係る支援を検討しているところです。

次に、団塊の世代対応についてお答えいたします。市では介護保険事業計画を長期ビジョンとして位置づけております。要介護認定者の数は、厚生労働省の見える化システムで推計していますが、実際の数字とはずれが生じています。例えば令和7年の推計は1,682名でしたが、今年4月の実際の認定者数は1,606人と予想より少なくなっています。全国的には2040年に要介護認定者がピークを迎えるとされていますが、私たちの地域では既にピークを過ぎており、今後は緩やかに減少していくものと考えられます。ただそれでも、医療・介護スタッフの確保は引き続き重要な課題です。特に、夜勤者の確保が難しいため、市独自の交付金や人材確保支援など、様々な対策を講じております。

今回、神東会がショートステイ用に準備する部屋は主に2人部屋や4人部屋で、個室は2室だけと聞いております。個室を希望される方にとってはこれまでと同じ利便性を得るのは難しいのではないかと考えております。

最後に、4つ目の説明会での意見についてお答えいたします。神東会は11月に2回、特養の施設説明会を開催しました。参加者からは4月以降の在宅生活に不安を感じている声や、従来と空床ショートでの変化に対する質問などがありました。山之村地区への送迎や食事介助についての質問には従来どおり対応可能とのことでした。

なお、将来的なショートステイの復活については、建物の利活用を含めて未定と回答されたと伺っております。

〔市民福祉部長 野村賢一 着席〕

○6番（上ヶ吹豊孝）

ありがとうございます。一点確認なんですけど、今、確か部長の答弁では、今度の特養は空床型なんですけども、最終的には10床を常に確保しているということではよろしかったでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□市民福祉部長（野村賢一）

10床を目標にというふうに聞いておりました、先ほど申しましたが、その段階的に4床、6床、あるいは8床、10床といつになるか分かりませんが、昨日も前川議員の質問にお答えしましたけれども、退所者が出ないと空かないものですから、確実に10床ということではないというふうに認識しておりますし、神東会のほうからも取りあえず10床をというふうに聞いておりました、それより増えるのか、そこら辺はちょっと未定であります。

○6番（上ヶ吹豊孝）

現状は30床あって、約20床を利用されているということで、今の答弁ですと、最終的に目標は10床程度というので、それがいつになるか分からんという返事ということで、これは市民の方が

使うんですよね。部長の答弁を聞いていると、うちは伝えるだけのような話しか思えんですけど、これは市民の方が利用するんであって、先ほども富山、高山、古川へ移送するというところでしたけども、若い方が富山とか高山へ行くには問題ないんですけど、これは精神的にも肉体的にも弱い高齢者の方がそういったところに行くということは、ひょっとしたら富山へ行くんなら、もううちにおるわということになったりとか、結局ショートステイは介護疲れの家族の方が利用するというのもうたってあるんで、いつになるか分らんとか、そういうのでは、今でもショートステイは二、三か月前に予約しないと入れないということも聞いているんですけど、その対応を市として市民が使うんですから、もう少し検討できませんか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□市民福祉部長（野村賢一）

まず、旭ヶ丘ショートステイを休止するということがやむを得ないということは御理解していただけたと思いますし、説明会の中で、御家族のほうからもやむを得んという意見をいただいているそうです。

10床の確保も確実でないということに対する不安なんですけども、そういう休床したということで、今度例えば古川の寿楽園ですとか、さくらのほうですとか、そういうショートステイをやっているところがもし空きがあれば、やはりそちらを利用していただくよりほかないと思います。施設がもうないんですから、神岡町内になれば神岡町外へ求めるしか仕方ないと思っております。

それで、本人には、おっしゃるように身体的な負担はもちろんかかるかと思えますけども、経済的な負担だけはないように、こちらのほうでその移送に関する支援をしたいということでございます。

○6番（上ヶ吹豊孝）

確かに今の旭ヶ丘のショートステイは経済的というか、企業として成り立たないので休止するというのは理解するんですけども、ほかの、例えば古川にしても、高山にしても、富山にしても、結局空いているかどうかの話だと思いますよね。多分全国的にどこもそういったショートステイ、特養とかも満床というふうに思います。そうすると、先ほど言いましたけど、本人も大変ですけど、見守っている家族の方も大変だと思います。これはなかなか答えは出ないと思うんですけども、利用者が利用しやすいようにやらないと、高齢になってからこういった精神的とか、肉体的不安というのは物すごくダメージが大きいと思うんで、市民福祉部として柔軟に利用者と家族が負担にならないようなことを十分検討していただいて、できれば神岡の特養10床と言わずに、空けるだけ空けてほかの移動がないように努力していただきたいというふうに思います。

それと、ピークは過ぎたというふうに部長今言われましたけども、2040年問題というのは今年度で75歳になられるんですけども、2040年問題というのは15年先ということは今の方が90歳ですよ。だから私、今の方は元気なんで、90歳まで元気に生活していただければいいんですけども、普通でいいますと、大体85歳ぐらいから利用されることが多いと思います。そうすると、あと10年しかないんですよ。そうすると、今ピークは下がったといいますけれども、私は継続して緩やかに上がるのか、急激に上がるような気がするんですけども、そのときの対応は検討され

ているのか、ピークが済んだから大丈夫だという話なんです、本当に全国のレベルじゃなくて、飛騨市の特に神岡町のもし数字が分かればお聞かせください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□市民福祉部長（野村賢一）

申し訳ございません、具体的な数字は今ここでは把握しておりませんが、ピークにつきましては、今、特養もちょっと回転が速くなったということは、昨日も市長のほうから答弁があったとおりですけども、そのように承知をしております、私どもとしてはピークが済んだんじゃないかと。これからその要介護者が団塊の世代の分だけどんどん増えていくか、それとも一緒なのか、減っていくのかということとはちょっと分かりませんし、そういう要介護認定者を増やさない努力を私たちはしております。なのでちょっとはっきりしたことは言えないんですけども、一応これからそういう要介護認定者は人口とともに減っていくという前提で、今、いろんな施策を進めているところでございます。

○6番（上ヶ吹豊孝）

ぜひ数字的なものをつかまないと、全国的なレベルで考えてもこの地域に合わないと思うので、ぜひその飛騨市の特に今神岡町のショートステイが休止になるということで、ちょっと神岡の団塊の世代、その後の我々も含めて、もうそういったことを把握して、計画的にやらないと、介護の今後の在り方も問題になってくると思いますので、ぜひ、飛騨市の神岡町の年齢層の把握を行っていただいて、対応していただきたいというふうに思います。

それとあと、先ほどまた戻りますけど、神岡のたんぼぼ苑に移った場合、空き床がなかったらほかの地域ということなんです、今部長のお話では、その利用する側が送迎してくれるという話でしたけども、どこも今、神岡の特養もそうなんですけど、ドライバー不足ということをおっしゃられてよく求人に出ておるんですけども、ほかの地域の特養、ショートステイもそういった人材不足で本当にドライバーの余裕があるのかということと、当然介護士の余裕もあるかというのはちょっと私は疑問に思うんですけど、どこの辺まで受入れ体制、輸送体制が取られているのか、具体的にもし分かればお願いします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□市民福祉部長（野村賢一）

基本的にはそういった移送の車を持っている事業者につきましては、そこが移送して下さるということですけども、おっしゃるとおり、そこだけでは足りないということも考えられますし、例えば富山なんかですと、富山の事業者が果たしてこちらまで送迎してくれるかどうかということも分かりません。

それで、先ほどの話で、市として支援したいのは移送業者、介護タクシーについて支援をしたいと思っております。古川の事業者で介護タクシーやっているとおりもございまして、先日、古川で1事業者がこの福祉有償運送のほうに参入されましたので、ちょっと移送のその車自体は確保できると思っておりますし、そんなに毎日、毎日、何回も、何回も走るものではないと思っておりますので、恐らくタイムリーには送迎できるものと考えております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

ありがとうございます。利用者の方で心配されたのが、今は例えば旭ヶ丘のショートステイが満床の場合、古川とかに空き床があったときに、そのときは家族の方が古川の施設へ入れるんで、今回もそうだったら富山へ行ったり、高山へ行ったり大変やなということがあったんで、今聞くと、そういったことじゃなくて、市で介護タクシーなり、もしうまくいけば受入先の車で移送してくれるということでしたので、ぜひ家族の負担が少なくなるようお願いしたいというふうに思います。

最後になりますけど、結局利用するのは高齢者ですし、何回も言いますが、精神的にも肉体的にも弱い方がほかへ移るとい、長距離で移るといことは大変な思いをありますので、何とかやっぱり神岡町なら神岡町内、古川なら古川町内でちゃんと入所できるようなことを努力していただきたいというふうに思います。これは単に施設の問題だけでなく地域高齢者全体に関わる問題です。これだけ一生懸命やるのは私もそんなに遠くない時間にもう利用するかもしれませんので、私が入った場合には快適な老後を送りたいなという気もありますので、ぜひその辺十分検討されて負担のないようお願いして一般質問を終わります。

〔6番 上ヶ吹豊孝 着席〕